

新聞函會 32号

本在五月七日滋賀
 縣下第九區大川町滋賀
 新聞社々中 古川某午後
 六時退社の
 途中俄
 大雹降り
 出し指たる
 傘も打ぬるを殆難傷
 不及ひて其目方ハ
 三夕余有し由又同ト
 日ニ當つて下野國那
 須郡給沢村近辺暴雨雷鳴大雹地上ニ積事定まり其終り寸
 ふり四寸ニ至る雉免の類うくれて死る事數あれすと
 越後國十一大區の村々ニ同日午前十一時より二時間
 斗ニ雹の積事三四寸ニ過ぐと仙臺の人莫耶某
 の報にも同日白根駅の東南棚倉街路網掛の間最甚しく老若男女傷と
 蒙る者數多かりと入濱松縣下東海道白須賀駅の在兩崎村の原々之處の
 近傍ハ五月廿三日悪風暴雨雷鳴雹をふりし士族某の長屋の棟木を
 折り或ハ榎木を倒しなりと雹の大きさは七八歩ふり寸ニ至ると又六月
 一日も朽木縣下六千石村辺午後三時天俄よかき雹降り霹靂雷電



柳橋茂後
 八尾善庵

此ハ文化の在るハ具ハの不思議
 もふきあり其原由を
 知んと思ふ究理
 學ヲ勉強
 しめ